

JR 旧奈良駅舎



[概要]

JR 旧奈良駅舎は、第二代国鉄奈良駅舎として、1934(昭和9)年に完成し、寺院風の外観と鉄骨鉄筋コンクリート造という洋風建築技術が折衷したユニークな駅舎であった。

その後奈良駅周辺の高架化工事に伴い支障となり解体されることになったが、貴重な鉄道遺産として保存が決まり、2004(平成 16)年に曳家方式により移設することになり、建物の下にレールを敷き、その上に丸いコロ棒を設置して移動した。(反時計回りに 13 度回転、北へ 18m 移動)

その後 2009(平成 21)年に奈良市総合観光案内所としてリニューアルして現在に至っている。

五重塔などに見られる「相輪」や「風鐸」の装飾を備える「寺院風」の屋根を持ち、折上格天井といった和風建築様式や、柱や壁面にあしらわれた古代文様のレリーフには寺院建築の影響が見られる。

一方、縦長の窓やその近傍のレリーフは洋風建築の意匠も見られる。

[諸元]

- ・ 現名称 奈良市総合観光案内所
- ・ 所在地 奈良市三条本町
- ・ 設計者 柴田四郎・増田誠一
- ・ 施工者 大林組
- ・ 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造平屋建て
- ・ 竣工年 1934(昭和 9)年
- ・ 平面形状 幅 25m、奥行き 24.5m

[歴史]

1890(明治 23)年 大阪鉄道開通、初代駅舎完成

1907(明治 40)年 国有鉄道になる

1934(昭和 9)年 寺院風第二代駅舎完成

1987(昭和 62)年 西日本旅客鉄道(JR)となる

2003(平成 15)年 高架化工事に伴う仮駅舎完成

2004(平成 16)年 曳家工法により北に 18m 移動

2007(平成 19)年 経産省近代化産業遺産認定

2009(平成 21)年 奈良市総合観光案内所開設

2011(平成 23)年 土木学会選奨土木遺産認定



選奨土木遺産銘板



初代奈良駅舎(出典:奈良市史)



曳家工事の状況(出典:奈良市)